

消化器内科

■研修内容の概要

消化器内科は院内における消化器疾患のすべてを担当し、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆道、膵臓といったきわめて広い領域をカバーしています。診療においては多くの消化器病専門医が指導を行い、各分野のスタッフから最先端の医療を学ぶことができます。入院患者に対しては、当科では研修医、医員・大学院生(中間医)、教官(指導医)を中心とした3名以上の主治医グループで診療を担当しています。この体制によってグループ内では各専門分野の先生による指導を受けられますので専門分野に偏らない最先端の研修が可能となっています。研修医は日々グループ内でのカンファレンスにて症例の経験を積み、毎週の教授を中心としたチャートカンファレンスにて症例発表を行うことでプレゼンテーションの能力が養われます。検査、処置においては病棟以外にも内視鏡センターや超音波センターなどにおいて、指導医とともに介助などにも積極的に携わることが期待されます。このように多岐にわたる研修が可能であり、非常に多くの内科診療の経験を積むことが可能です。

■1年次の研修目標

* 消化器内科において必要な診断・治療法を学びながら、内科医としての基本診療についても経験する。

- 患者とコミュニケーションをとりながら病歴を聴取する。
- 全身の身体所見をとり、正確に診療録に記載する。
- ベットサイドにおける患者診療において基本的な知識と技術（静脈採血、静脈注射、静脈留置針挿入、動脈血採血、尿道バルーン留置、血液培養、腹腔穿刺など）を習得する。
- 各種検査（血液検査、レントゲン・CT・MRI、心電図、尿検査、血液ガス、便検査など）を依頼、もしくは自ら行う。
- 得られた病歴、身体所見、各種検査の結果に基づき指導医とともに初期診断、初期の治療計画を立て、必要に応じて追加検査について立案・依頼する。
- サマリー、他科への診療依頼(対診依頼)、診断書などの文書の作成を行う。
- 内科の基本となる輸液管理について基本的な知識を身につける。
- 日々のカンファレンスや症例検討会にてプレゼンテーションを行う。
- 日常の内科診療や救急対応が必要な消化器疾患について内視鏡検査・超音波検査・放射線検査の適応・方法について学ぶ。
- 担当患者において指導医のもとで助手として検査・処置に積極的に関与する。
- 腹部超音波検査の基本を学び、主要な肝胆道系疾患や腹部救急領域の診断力を養う。
- 各種検査所見の読影力を身につける。

■ 2年次の研修目標

*1年次に身につけた内科診断・治療法をベースにしながら、消化器内科の診断・治療につきより実技を交えながら学ぶ。

- 担当患者の背景基礎疾患（循環・呼吸・腎・糖代謝）の評価を的確に行う。
- 各種消化器疾患に対して消化器系検査（内視鏡、超音波、放射線検査）を行い（時には自身で行う）、検査結果に基づく治療計画を立案する。また、他科との連携が必要なケースにおいて、他カンファレンスでの症例提示も行う（外科カンファレンスなど）。
具体的には消化器癌における病期診断と進行度に応じた治療法（手術療法、化学療法、放射線治療、緩和治療など）の選択を理解する。
- 担当患者の内視鏡検査・治療の助手として生検などの介助を行う。
- 腹部超音波ガイド下処置（肝生検、ラジオ波凝固療法など）の原理・内容を理解する。
- 炎症性腸疾患の診断、重症度評価に基づく治療計画について指導医とともに立案し、各種薬剤（生物学的製剤、免疫抑制剤など）の選択および使用法について理解する。
- 重症患者（劇症肝炎、重症膵炎など）のICU管理を行う。
- 指導医の同席のもと各種結果に基づく治療計画について患者本人、家族への説明を行う。
- 自身で経験した症例について学会・論文などで報告を行う。

■ 研修が推奨される診療科

内視鏡診断、治療、肝胆膵領域のインターベンションなど高度な専門性をもって診療にあたるとともに、消化管外科、肝胆膵・移植外科、小児外科、放射線診断科、放射線治療科、腫瘍内科、外来がん診療部、初期診療・救急科、緩和医療科、病理診断科など、様々な院内他科と密接な協力態勢を敷いて、更なる高度先進医療を目指しています。この為、これら診療科での研修は消化器内科の理解にも繋がるため研修を推奨します。

■ 当科での研修・見学問い合わせ先

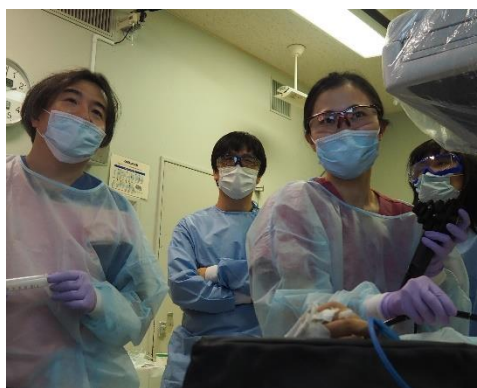
当科での研修・見学を希望される方は随時見学を受け付けております。

消化器内科 妹尾 浩教授 連絡先；075-751-4319

（担当：医局長 福田 晃久 E-mail: fukuda26@kuhp.kyoto-u.ac.jp）



主治医グループカンファレンス



内視鏡検査